

(様式第8号)

長野県みらい基金 事業指定助成プログラム  
助成対象事業実績報告書

2025年4月28日

公益財団法人

長野県みらい基金 理事長 様

申請者：所在地 長野市三才 264

団体名 NPO 法人子ども・人権・エンパワメント CAP ながの

代表者 職・氏名 代表 矢島 宏美



『長野県みらいベース』において当団体が掲載した「事業指定助成プログラム」について、  
下記のとおり報告します。

記

1 助成対象事業名

子ども虐待・いじめ等暴力防止プロジェクト

2 助成対象事業の実施期間

2023年9月1日から2025年3月31日

3 助成対象事業の内容

CAP ワークショップを実施する必要を感じていても予算が足りない学校等で、  
子どもたちにワークショップを提供する

4 事業の成果

飯田市立緑ヶ丘中学校において CAP ワークショップを実施することができた

実施日 2025年3月11、12日

対象者 2学年7クラス 235名

5 助成対象事業の実施状況を示す書類（添付）

(1) 助成対象事業収支計算書

(2) 事業の経過又は成果を証する書類（ワークショップ申込書写し）

(3) その他参考となる資料（会報）

助成対象事業 収支計算書

| 区 分    |                             | 金額 (円)       | 内 訳                   |         |
|--------|-----------------------------|--------------|-----------------------|---------|
| 収<br>入 | ① 本助成金                      | 1 5 5, 7 0 0 | 事業プログラム助成金            |         |
|        | ② 自己資金<br>会費、事業収入、<br>寄付金など | 8 7, 6 4 0   | CAP ながの自己資金           |         |
|        |                             |              |                       |         |
|        |                             |              |                       |         |
|        |                             |              |                       |         |
|        | ① その他                       |              |                       |         |
| 収入合計   |                             | 2 4 3, 3 4 0 | ( A )                 |         |
| 支<br>出 | 助成対象経費                      | 手当交通費        | 2 4 3, 3 4 0          | スタッフ7名分 |
|        |                             |              |                       |         |
|        |                             |              |                       |         |
|        |                             |              |                       |         |
|        |                             |              |                       |         |
|        |                             |              |                       |         |
|        |                             |              |                       |         |
|        |                             |              |                       |         |
|        | 計                           |              | 2 4 3, 3 4 0          | ( B )   |
|        | 助成対象外経費                     |              |                       |         |
|        |                             |              |                       |         |
|        |                             |              |                       |         |
|        |                             |              |                       |         |
|        |                             |              |                       |         |
|        |                             |              |                       |         |
|        |                             |              |                       |         |
|        |                             |              |                       |         |
| 計      |                             |              | ( C )                 |         |
| 支出合計   |                             | 2 4 3, 3 4 0 | ( B ) + ( C ) = ( A ) |         |

※上記報告書の裏付けとして、領収書のコピーを添付してください。

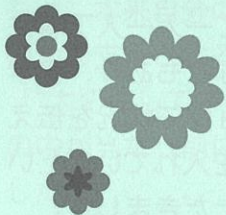


# 広場・CAPながの

第50号 2025年4月

発行：NPO法人 子ども・人権・  
エンパワメント CAPながの

.....  
ワークショップ参加延べ人数  
(2025年3月末現在)  
おとなWS：1,374回 45,907人  
子どもWS：2,248回 51,030人



## 「安心」「自信」「自由」は大事な合言葉

須坂市立井上保育園  
園長 森川 幸子

「幼児虐待」「ネグレクト」という言葉が社会で聞かれるようになる少し前に、当時親から虐待を受けていたお子さんを受け持っていたことがありました。いつもCAPを受講する時に、当時のことを思い出し、「私はその子の安心な存在になっていたかな」「何かもっとできることはなかったかな」という思いに駆られます。子どものSOSに気付くことや、安心できるおとなでいたか等、当時の自分を振り返り悔やみます。

子どもたちは自由や安心が奪われてしまったことに気付かず、心を痛めていることがあります。子どもワークショップでは、子どもたちに、「逃げていいんだ」「話していいんだ」「嫌だって言ってもいいんだ」と、自分を守るための大事な方法をわかりやすく伝えてくださり、「安心」「自信」「自由」の中で過ごすことの大切さを伝えてもらっています。おとな側は子どもが困った時に孤立させず、しっかり耳を傾けること、子どもの人権を守ること、子どもたちに「自分は大切な存在だ」という気持ちを育てる事を教えていただき、信頼できるおとな、話を聴いてくれるおとな、一緒に考えてくれるおとなとしての存在の大事さに気付かせてもらっています。

子どもワークショップの最後のトークタイムでは、聴き手側の「ちゃんと聴いてあげるよ」のサインを子どもが感じ取ったから、話そうと行動する場面をよくうかがいます。日々の保育の中でも「聴いてあげるよ」の聴き手側の思いを、お互いの関係性の中で伝えていくことを大切にしないといけない、と気付かされました。そして、話をしてくれた人（子）に「話をしてくれてありがとう」の一言が、受け止めてもらえた、大切にしてもらえたという安心感になることを、自分自身もワークショップの中で体験し感じることができました。

また、保育園では子どもワークショップで教えてもらった「安心」「自信」「自由」が子どもたちの合言葉になっています。

ある日、5歳児のいざこざの場面で仲裁に入った同じクラスの子どものが、「いまのことは、あんしんだった？」「〇〇ちゃん、じゆうだった？」とワークショップでのシーンと同じやり取りをしている場面に出会いました。寸劇のよう思わず微笑んでしまいましたが、少ししてから「これはすごい！」と感動に変わりました。友達のやり取りが安心や自由ではなかったと感じたから、仲裁に入り代弁したのです。行動を振り返ることができる大事な合言葉になっているんだなあ、と感心しましたし、子ども達の心に素直に伝わっていたことが、とてもうれしかったです。

ワークショップを通して、幸せに生きるために誰もが持つ大事な権利、「安心」「自信」「自由」について、私達はしっかり受け継いでいかなくてはいけない、と感じます。これからも社会の中にCAP（人権教育プログラム）がもっともっと広がっていくことを願っています。



## いただいた贈り物を、子どもたちに…

長野県松本盲学校  
校長 小林 宏樹

数年前、本校で「子どもワークショップ」「おとなワークショップ」「教職員ワークショップ」をやっていただきました。そして今回は、保護者の方と一部の職員に「おとなワークショップ」をしていただきました。

「子どもワークショップ」を実施した際のことです。スタッフの方も盲学校の児童生徒に対してのワークショップは初めてということで、参加する児童生徒の実際の見え方等について一人一人丁寧に実態を聴いていただきました。これまでの設定では伝えられない状況や難しい表現などもあり、盲学校の支援をヒントに、様々な工夫をしていただきました。場面設定の際、ナレーションで状況を伝えていただいたり、劇の中では足音を強く響かせたり、セリフの中に状況がわかる言葉を入れていただいたりしました。また、文字は大きく見やすく書いていただくなど、とても配慮していただきました。

後日、お話しを聞いた際に、盲学校での対応が他の小学校や小さいお子さん達にとって、状況が理解しやすくなるユニバーサルデザインに繋がったとお聞きしました。

盲学校の児童生徒にとって、見えづらい中でも状況がよくわかり、ストーリーを追って考えることができました。ワークショップを終えた児童生徒は、終了後にも質問や個別の相談などお話をする姿がありました。これも、子どもたちが「安心」できたからこそその状況だと思います。まさに「安心があるから、たくさんお話しをしてくれる」姿でした。

そして、今年度は保護者の方を中心に「おとなワークショップ」を行いました。7月の土曜参観日の実施ということもあり、多くの保護者の方に参加していただき、実施することができました。私たちおとなにできることとして、「『聴く』ことは誰にでもできる心の手当て」、「話してくれて、ありがとう。の思い」等々、ワークショップの中で、私たちの心に響くメッセージを、たくさんいただきました。参加された保護者の方からは、「いっぱい話を聴いて、いっぱい褒めてあげたいと思います」などの感想をお聞きすることができました。まさに、「CAPのメッセージは、あなたと子どもの信頼の絆を深めます」、「あなたがCAPを知ったなら、あなたは子どもに素敵な贈り物ができます」という、CAPの復習冊子にあるメッセージが、体現できたワークショップでした。

この研修でいただいたもの（教えていただいたこと、学んだこと）を、今後は我々が子どもとの関係の中で実践して、素敵な贈り物として子どもたちに届けたいと思います。

CAPながのの皆さん、ありがとうございました。

## 子どもたちに生きる力を育む学校づくりから地域づくりへ

飯綱町立飯綱中学校  
校長 坂戸 晴俊

今年5月に飯綱町の子ども理解の講演会で、次のような質問がありました。

「最近、若者が闇バイトなどの犯罪に関わる事件が多くみられるが、このことには、どんな原因が考えられるのか」

その質問に講師の方は次のようなお話しをされました。

「自分のことを大切に思える人は、罪を犯したり、自分が危険な目にあったりすることを避けようと思えることができるが、そうでない人は危険を顧みず、罪を犯すことに抵抗がなくなる可能性がある」



この話を聞いて、私は昨年まで在籍していた学校で教職員の非違行為防止研修として行ったCAPによる研修のこと思い出しました。

CAPワークショップでは、「人権意識」「エンパワメント」「コミュニティ」を柱として全ての子どもたちが安心して、自分らしく、自由に生きることができるようにするために学校だけでなく、家庭でも同様の環境づくりを進めるプログラムがあることを学びました。

新たに校長として赴任した学校で、さっそく教職員と保護者にCAPワークショップを実施しようと提案し、6月10日に教職員、6月17日に保護者に実施しました。研修を通して、教職員は「子どもは、本来自分の人権を守るために立ち向かう力があるから具体的な方策を指導するのではなく、その力の支えとなる「自分を大切に思う」ことを私たちが支援していくことが大切」と学び、保護者は「大切にしてもらった経験がないと他人も大切にできない」という言葉が心に残った。NOといえる世の中が当たり前になることが大切だと思った。子どもにたっぷりと安心を与えたい」と話してくれました。

7月10、12日には、子どもたちがワークショップを実施しました。その中で印象に残った場面がありました。「体罰は必要か」についてひとり一人が考えを表明するワークショップでのことです。その中で「体罰は必要」だと答えた子どもが数名いました。その理由を子どもたちは「悪いことをしたらたたかれても仕方がないと思う」と答えていました。この言葉を聞いて、このプログラムをもっと早く始める必要があると強く感じました。

現在は、町の教育委員会や小学校、保育園にこの取り組みの成果や意義を伝え、飯綱町全体で子どもたちの安心、自信、自由をサポートしていく地域づくりを進めています。



## 1人でも多くの人に伝えたい

長野県茅野高等学校  
校長 小口 直喜

本校では4年前からCAPワークショップを生徒向けから始め、昨年より生徒・保護者・教職員向けのワークショップを実施していただいています。私自身は6年前勤務校で参加させていただき、以後異動先でも毎年参加させていただいており、私の中ではすっかり年中行事となっています。毎年思うことは、子どものためプログラムですが、子どもと関わる私たちおとなまで「明日からまた生徒としっかり向き合おう」という勇気と元気をいただいているということです。

学校は本来子どもたちにとって安全・安心な場でなければなりません。学校施設、通学路など物理的な安全面については以前から注目されていましたが、心の安心の確保については表舞台ではあまり語られずにいたと思われます。まずは子どもたちが自分の「安心」「自信」「自由」を確保できること、その上で相手の「安心」「自信」「自由」を尊重することができるようになってほしいこと、学校が子どもたちの存在と人権を尊重する場であることを願っています。

先日ある学校の探究学習の発表会を見学する機会があり、担当者から学年全体に向けて準備の前に「相手目線に立って、自分の発表が伝わるか検証してみてください」と投げかけられていました。日頃から相手を尊重するマインドを醸成するよう取り組まれていることが伝わってきました。その背景には、生徒一人ひとりの存在を尊重した教育が根付いていることが覗われました。

本校もCAPながの皆さんのお力をいただきながら、自他共に尊重することのできる生徒を育て、生徒が安心して自己実現のできる学校づくりを目指していきたいと願っています。

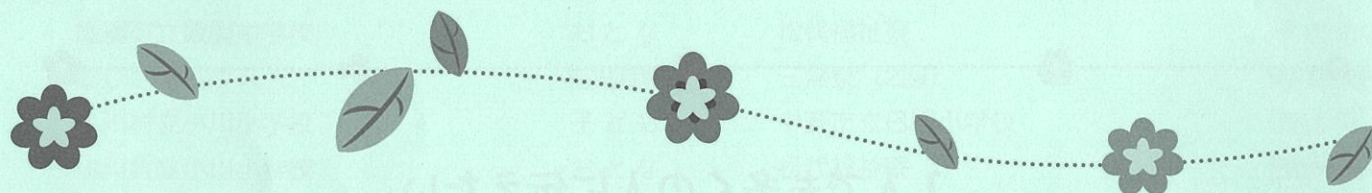


ワークショップに参加された保護者からは「もっと早くこのプログラムに出会っていたら、多感な思春期の子どもに、違う接し方ができたかもしれない」との感想がいくつか寄せられました。教職員からは「困難を抱えた生徒への理解が深まり、対応の仕方について学ぶことができた」「聴いてくれる人がいること、聴くことが大切であることを学んだ」「生徒に自分を大切にすることを伝えたい、同時に私たちが生徒を大切にすることを忘れてはいけない」といった感想がありました。生徒の問題に向き合う時にも、行動だけでなくその背景まで考え、指導を進めるなどの変化も見られます。特に本校では初任や若い先生方が多く、プログラムを通じて日々悩み、迷いながら生徒と向き合っている先生方の背中を押していただきました。この貴重な経験を異動した先の学校でも活かして、更に周りの人に伝えてくれればと思います。

生徒からは「もっと早く知りたかった」「過去にいじめにあった時、知っていれば行動できた」「一人で悩まずに相談すれば良かった」との声がありました。

県教育委員会心の支援課の施策により高等学校ではCAPながの皆さんの取り組み・プログラムについて広く認知されるようになりました。今後、小中学校においても実施される学校が増え、多くの子どもたち、教職員、保護者とCAPの理念を共有し、すべての子どもたちが安心して自分を大切に思える社会が実現できることを願っています。

最後にCAPながののスタッフの皆様にご心より感謝を申し上げ、更なるご発展とご活躍を祈念いたします。CAPの理念が1人でも多くの人に伝わることを切に願います。



## エネルギーの源 ★ ワクワク企画

昨年度から始まった私たちのためのワクワク企画。もちろん今年も開催しました！

CAPながのと言ったら、美味しいランチ。第1弾は安曇野市での例会後、自然豊かな中にあるおしゃれなレストランでランチ。運ばれてくるお料理に目を奪われ、心も奪われ美味しく頂きました。大いにおしゃべりした楽しい時間となりました。

第2弾は苔テラリウムのワークショップです。講師の方から、土のことや苔の種類、植え方などのお話をお聞きして、さあ！苔を植えていく…みんな真剣。し～んとして黙々と苔を植える。「私たちってこんなに静かにできるんだ」と誰かがポツリと言う。確かに(笑)

出来上がった苔テラリウムが唯一無二で愛おしくて、心が豊かになった時間でした。

ワークショップをしっかりと届けるには、体も心も元気でないとできません。

ワクワク企画でエネルギーをたくさん蓄えて、これからもワークショップを届けていきます。

( 上野 久美子 )





## 大切な子どもたちの声 アンケートより



### 【小学生】

- ・このはなしをきいたら、あんしんして、じしんがついた。
- ・げきで、じっさいにおきても、だいじょうぶだと思った。
- ・「いやだ」という言葉は、自分を守ることのできる、まほうのような言葉だと思った。
- ・いやなことがあったら、だれかに言っていよいよ、と言われたから、あんしんした。
- ・わたしもむりせずに、そうだしようと思った。
- ・私はこまったら、一人でためこんでしまいそうなので、だれにそうなんするかな、とあまり考えていませんでした。今回はそれをしれて、とてもいいきかいになった。
- ・ふしんしゃがきたとき、大きな声をだしていよいよ、って言われたから、すごくあんしんした。
- ・みんなといっしょに、げきにさんかするのも楽しかったです。
- ・あんまりこんなきかいがないから、うれしかった。

### 【中高生】

- ・権利があるって、生きている感じがしました。
- ・いじめられた人は悪くない。ということを知ってちょっと救われたような感じがしました。今後も安心、自信、自由が持つことができ、生きていけると思いました。
- ・「自信」が無ければ、いやな事をされても断わることができなくて、「安心」が無ければ、心が休まらずにつかれてしまって、「自由」が無ければ、思うままに行動する事ができないと思いました。
- ・この人権（安心、自信、自由）があたりまえの世の中になってほしいと思いました。私も出来ることはやっていきたいと思う事ができました。今日教えてくれた上手に人の話を聴くコツを使ってみます！
- ・楽しく真剣に考えることができたし、みんなの意見が聞けたので、新しい考えを取り入れることができました。
- ・嫌だと感じたことをそのままにしていると、安心して生活することは難しいので、分かりあえるよう伝えることをあきらめないようにしていきたいなと思います。
- ・被害者にも人権があるし、加害者にも人権があるというのをわすれないようにしたい。
- ・相談できるような環境を作って、みんなが安心して意見できるようになればよいなと思いました。
- ・親や友人、恋人、どれだけ近い人でも100%自分と同じ思い、考えではないんだなと思って、今後は自分の考えをはっきりさせて、相手と話し合い、おたがい大切にしたいように生活していきたいとおもいました。
- ・自分らしくできている今はとても大切であり、あたりまえのことになればいいなと思いました。
- ・女らしく、男らしくいなきゃと思って、自分を苦しめないように「自分らしさ」をもって過ごそうと思いました。
- ・人にはいいにくい性についてやりました。つき合っても同意なしにやると犯罪になる事、そのせいで大切な人をきずつけてしまう可能性がある事を知ることができました。
- ・暴力をしない、させない。自分が嫌な事をされたら、しっかり自分の人権を守る。誰かが助けを求めて来たら、助けてあげる。とにかく「あきらめない」ということが大事だと思いました。



## 2024年度 CAPながの ワークショップ 実施一覧

|    |                    |      |     |                 |      |
|----|--------------------|------|-----|-----------------|------|
| 4月 | 小川村立小川中学校          | 教職員  | 7月  | 長野県茅野高等学校       | 教職員  |
|    | 小川村立小川中学校          | 子ども  |     | 中野市立豊田小学校       | 教職員  |
|    | 小川村立小川中学校          | おとな  | 8月  | 筑北村立聖南中学校       | 教職員  |
| 5月 | 公開ワークショップ（長野市）     | おとな  |     | 松本児童園（2回）       | 施設職員 |
|    | 須坂市教育委員会子ども課       | 教職員  |     | 松本児童園           | 子ども  |
|    | 長野県長野西高等学校         | 教職員  |     | 中野市立平野小学校       | 教職員  |
|    | 須坂市教育委員会子ども課       | おとな  |     | 須坂市立井上保育園       | 子ども  |
|    | 長野県長野西高等学校         | 子ども  |     | 須坂市立千曲保育園       | 子ども  |
| 6月 | 須坂市立みつばち保育園        | 子ども  |     | おさひめチャイルドキャンプ   | 子ども  |
|    | 須坂市立上高井保育園         | 子ども  |     | 長野県高等学校初任者研修    | 教職員  |
|    | 須坂市立相之島保育園         | 子ども  |     | 南牧村立南牧南小学校・北小学校 | 教職員  |
|    | 須坂市立高甫保育園          | 子ども  |     | 南牧村立南牧中学校       | 教職員  |
|    | 飯綱町立飯綱中学校          | 教職員  |     | 中野市立中野小学校       | 教職員  |
|    | さかた山風の子保育園         | 子ども  |     | 長野県白馬高等学校       | 教職員  |
|    | 小川村立小川小学校          | 教職員  |     | 中野市立高丘小学校       | 教職員  |
|    | 長野県箕輪進修高等学校        | 教職員  |     | 山びこ幼稚園          | 子ども  |
|    | 長野県高等学校教頭マネジメント研修  | 教職員  |     | 中野市立高社小学校       | 教職員  |
|    | 須坂市立須坂保育園          | 子ども  | 9月  | 松本市立開成中学校       | 教職員  |
|    | 須坂市立豊丘保育園          | 子ども  |     | 公開ワークショップ（松川村）  | おとな  |
|    | 飯綱町立飯綱中学校          | おとな  |     | 松代福祉寮           | 子ども  |
|    | おひさまハウス            | 施設職員 |     | 三帰寮（2回）         | 施設職員 |
|    | 小川村立小川小学校          | 子ども  |     | 中野市立日野小学校       | おとな  |
|    | 小川村立小川小学校          | おとな  |     | 松代福祉寮           | 施設職員 |
|    | こどもの森幼稚園           | おとな  |     | 中野市立高社小学校       | おとな  |
|    | こどもの森幼稚園           | 子ども  |     | 長野県阿南高等学校       | 子ども  |
|    | 筑北村立筑北ひまわり保育園      | 教職員  | 10月 | 千曲市立治田小学校       | 教職員  |
|    | 須坂市立日野保育園          | 子ども  |     | 公開ワークショップ（長野市）  | おとな  |
|    | 須坂市立仁礼保育園          | 子ども  |     | 長野県箕輪進修高等学校     | おとな  |
|    | 長野県阿南高等学校          | 教職員  |     | 筑北村立筑北ひまわり保育園   | 教職員  |
|    | 長野県高等学校校長マネジメント研修  | 教職員  |     | 飯山学園            | 施設職員 |
| 7月 | 長野県飯田OIDE長姫高等学校定時制 | 教職員  |     | NPO法人チャイルドライン佐久 | おとな  |
|    | 長野県飯田OIDE長姫高等学校定時制 | 子ども  |     | 松本市立開成中学校       | 教職員  |
|    | 長野県箕輪進修高等学校        | 子ども  |     | 沓掛学荘            | 施設職員 |
|    | 飯綱町立飯綱中学校          | おとな  |     | 沓掛学荘            | 子ども  |
|    | 木曽町立三岳こども園         | おとな  |     | 長野県飯田OIDE長姫高等学校 | おとな  |
|    | 長野県松本盲学校           | おとな  |     | 長野県長野西高等学校      | おとな  |
|    | こどもの森幼稚園           | 教職員  |     | 飯山学園            | 子ども  |
|    | 中野市立延徳小学校          | 教職員  |     | 松本市立開成中学校       | 子ども  |
|    | 中野市立日野小学校          | 教職員  | 11月 | 南牧村立南牧北小学校      | おとな  |
|    | 須坂市立東部保育園          | 子ども  |     | 中野市立高社小学校       | 子ども  |
|    | 須坂市立北旭ヶ丘保育園        | 子ども  |     | 筑北村立聖南中学校       | おとな  |



|     |                 |      |    |                |      |
|-----|-----------------|------|----|----------------|------|
| 11月 | 南牧村立南牧中学校       | おとな  | 1月 | 飯田市立緑ヶ丘中学校     | 教職員  |
|     | 筑北村立聖南中学校       | 子ども  |    | 伊那市教育委員会       | おとな  |
|     | 南牧村立南牧北小学校      | 子ども  |    | つつじが丘学園（2回）    | 施設職員 |
|     | 南牧村立南牧南小学校      | 子ども  |    | つつじが丘学園        | 子ども  |
|     | 中野市立日野小学校       | 子ども  |    | 慈恵園            | 施設職員 |
|     | 南牧村立南牧南小学校      | おとな  |    | 慈恵園            | 子ども  |
|     | 公開ワークショップ（高森町）  | おとな  |    | 松川村立松川小学校      | 子ども  |
|     | たかずやの里          | 施設職員 |    | 松川村立松川小学校      | 教職員  |
|     | 長野市立古牧小学校       | おとな  |    | 松川村立松川小学校      | おとな  |
|     | 筑北村立筑北小学校       | おとな  |    | 飯田市立緑ヶ丘中学校     | おとな  |
|     | 長野県社会福祉会        | 教職員  |    | 筑北村立筑北小学校      | 子ども  |
|     | （こどもの意見表明等支援事業） |      | 2月 | 中野市立高丘小学校      | おとな  |
|     | おさひめチャイルドキャンプ   | 施設職員 |    | 池田町（カフェ）       | おとな  |
| 12月 | たかずやの里          | 子ども  |    | 中野市立平野小学校      | おとな  |
|     | 長野県明科高等学校       | 教職員  |    | 中野市立平野小学校      | 子ども  |
|     | 木曽町立木曽こども園      | おとな  |    | 公開ワークショップ（松本市） | おとな  |
|     | 長野県茅野高等学校       | 子ども  |    | 中野市立高丘小学校      | 子ども  |
|     | 長野県茅野高等学校       | おとな  |    | 中野市立平野小学校      | 子ども  |
|     | 南牧村立南牧中学校       | 子ども  | 3月 | 筑北村立筑北ひまわり保育園  | おとな  |
|     | 長野県明科高等学校       | 子ども  |    | 飯田市立緑ヶ丘中学校     | 子ども  |
|     |                 |      |    | 木曽町立日義中学校      | 教職員  |

おとなワークショップ参加延べ人数（ワーク数） 45,907 人（1,374 回）  
子どもワークショップ参加延べ人数（ワーク数） 51,030 人（2,248 回）

## 新事業もスタートしています！

子どもの権利について更に身近に感じてもらえたらと2024年度新たにスタートした種蒔き事業、その名も“Bloom project by CAPながの”。8月に長野市長命寺さんのご協力のもと夏祭りにブース出展させていただきました。

子どもがこんな行動をした時、おとなは何て声をかける？ 子どもは何て声をかけられたらうれしい？ CAPながのオリジナルのイラストカードを使いながら、ゲーム感覚で楽しく意見交換ができました。

例えば子どもが牛乳をこぼした時、「また～！？ ってつい言っちゃいます」とお母さん。子どもは「大丈夫？ 熱くなかった？」って言ってもらえたらうれしい、と。

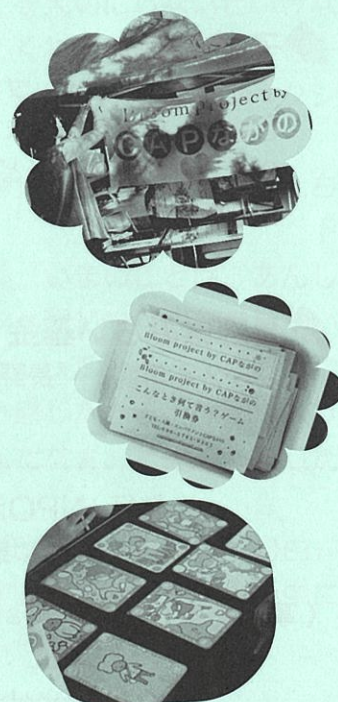
みなさんだったらどんな声をかけますか？ 正解がないところもまた楽しいのです。

子どもの権利を支える、子どもを尊重する、ってきっと大袈裟なことでなくていいのです。日常の中にあるささやかな声かけ、ちょっとだけ丁寧な関わり、歴史にも残らないようなそんな毎日の積み重ねやおとなの思いが、あたたかく子どもの心の中に残っていくから、これからもそうやって生きる力を支えていくのでしょうか。

そしてBloom projectはまだまだ活動の場を探しています。ブース出展させていただける催し、ぜひ情報をお寄せください。

みなさんで一緒に考えましょう。さあ、こんな時って何て言う？

（竹前 美里）





# CAPながのより Information



## ◆「子ども基金」にご寄付いただきました

小雀保育園 様

慈恵園 様

温かい思いがこもったご支援をいただき、本当にありがとうございました。

子どもワークショップ開催の補助金として大切に使用させていただきます。

## ◆CAP公開おとなワークショップを開催予定です

子どもを暴力の被害者・加害者・傍観者にしないために、おとなとして何ができるか一緒に考えてみませんか？

今年度も初夏、秋、冬頃に長野県内各地で公開おとなワークショップの開催を計画中です。

詳細はCAPながのFacebookで随時お知らせいたします。

## ◆CAPスペシャリスト養成講座の開催が決定しました

CAPスペシャリストの養成講座が2025年秋、松本市にて開催されます。すべての子どもの人権が尊重される社会を目指し、CAPながのの仲間と一緒に活動しませんか？

詳細は決まり次第、CAPながのFacebookにてお知らせいたします。

## ◆人権教育の研修会に補助金が交付されます

長野県将来世代応援県民会議を通じて、子どもの性被害予防のための取組支援事業補助金交付要綱が制定されました。子どもを性被害から守るための人権教育研修事業団体として、CAPながのが選任されています。CAPワークショップを開催するにあたり、上限はありますが補助金が交付されます。

※お問い合わせ先：長野県将来世代応援県民会議（長野県県民文化部こども若者局次世代サポート課内）  
（TEL：026-235-8996）

## ◆子ども基金

子どもワークショップを開きたいけれど、費用の捻出がどうしても…という時、CAPながのの「子ども基金」を活用できます。事務局へご相談ください。

2024年度は「子ども基金」を活用して幼稚園1園、高等学校2校、中学校1校にワークショップを届けました。

## ◆長野県みらい基金

2024年度、「長野県みらい基金」を活用して中学校1校にワークショップを届けました。

発行：NPO法人 子ども・人権・エンパワメント CAPながの  
（広場・CAPながの編集：中村 英子）

〈事務局連絡先〉E-Mail：capnagano@gmail.com

TEL：090-5782-0263

Facebook：https://www.facebook.com/capnagano/

CAPながの Facebook

